

## 令和7年度 山県市立学校 スクールワイド PBS に基づいた取組

岐阜大学大学院 平澤 紀子 教授からのコメント

- ・ 専門：ポジティブ行動支援、特別支援教育、など。
- ・ 山県市立学校 スクールワイド PBS 講師

スクールワイド PBS（学校全体で取り組む望ましい行動支援）は、学校を安全で安心できる学びの場とする枠組みです。

子どもや教師の願いを基に、よさを引き出し、認め合う仕組みをつくりまします。12校いずれも、「安心できる学校にしたい」「仲間のよさを認め合いたい」「自分の目標をやりきりたい」という子どもたち自身の願いを出発点に取組を設計しています。

その願いを「やりきりせんげん」「ぽかぽかファイブ」「自信プロジェクト」「いわ桜五輪」など、各校の実態に合わせた具体的な行動目標に落とし込みました。そして、掲示・放送・カードなどの仕掛けで望ましい行動を引き出し、仲間同士が認め合える環境をつくりました。

その結果、子どもたちが「やり切った」という達成感や「自分にもよさがある」という自己効力感を実感し、互いを大切にする温かい学校文化が着実に育ちつつあります。

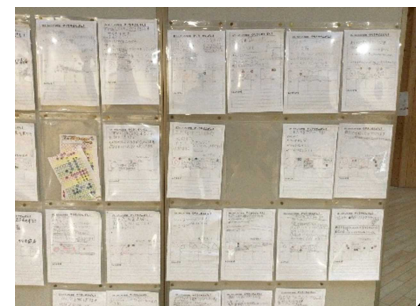
## 大切にしたいこと（児童生徒の願い、教師の願い）

- ・教室が安心できる場所であり、一人一人が大切にされる学校にしたい。
- ・望ましい行動を一人一人が考え、その行動に向かって一生懸命向かえるようにしてほしい。
- ・結果で見るのではなくそこに至るまでの過程や、努力に目を向け価値付けをし合える関係でありたい。



## 具体的な活動で

- ・「ぼく・わたしのやりきりせんげん！」を立て、毎週振り返りをしながら、目標に向かって頑張れているかを確認した。
- ・毎週全校放送で振り返りの時間を設けることで、仲間の頑張りや自分の頑張りを自覚し、さらに頑張ろうという意識を高めた。
- ・6年生が放送で自分の姿を語ることで、下級生はあこがれをもち、6年生は責任と自覚をもつことができた。
- ・目に見えるところに掲示して、自分の成長を確かめることができた。



## 今後に向けて

- ・高富小学校といえば〇〇という自信がもてるものを創り出す（掃除・挨拶・よさみつけなど）。
- ・教職員で SW-PBS の研修を積極的に行い、全職員が共通理解のもと、指導に当たる。
- ・児童が自分たちで活動を考え、仕組み、充実感を味わうことができるようにする。



## 平澤 紀子 教授（岐阜大学大学院）からのコメント

・「一人一人が大切」という願いを実現するために、「やりきりせんげん！」で自分の言葉で宣言し、認め合う仕組みをつくりました。6年生が語ることで、努力を価値付け合う環境が全校に広がっていますね。

## 大切にしたいこと（児童生徒の願い、教師の願い）

- ・挨拶を通して、お互いを大切にしたい富岡小にしたい。
- ・挨拶は富岡小の伝統であるという意識を、全校で高めていきたい。
- ・挨拶が自分のためだけでなく、まわりにいるすべての人を、あたたかい気持ちに導いてくれることを感じさせたい。



## 具体的な活動で

- ・全校で「もっと挨拶を大切にしよう」という意識を高め、誰に対しても自然と挨拶ができるような学校を目指すために活動を仕組む。
- ・後期の始まった10月から継続的に活動を行った。
- ・二度のアンケートを行い、挨拶を大切にしているかどうかの意識を、視覚的に把握できるようにした。
- ・委員会中心の挨拶ロードが、毎朝、どんどん長くなり、挨拶の意識が高まった。



## 今後に向けて

- ・挨拶が伝統であると、今後も胸を張って言えるように活動を継続していく。
- ・持続可能な活動にするために、6年生から現5年生に確実に活動を引き継ぎ、自分たちの力で伝統にしていく充実感を味わうことに繋げる。



## 平澤 紀子 教授（岐阜大学大学院）からのコメント

・「お互いを大切に」という願いを実現するために、「挨拶ロード」に取り組み、アンケートで意識の変化を可視化しました。自分で成果を確かめながら認め合える工夫が、子どもの意識向上につながっていますね。

**大切にしたいこと（児童生徒の願い、教師の願い）**

- ・学級や全校のみんなの笑顔がいっぱいの学校にしたい。
- ・相手の気持ちが分かり、どのような行動が望ましいのかを考え、お互いを大切にする言動ができるようになってほしい。

**具体的な活動で**

- ・自分や仲間の安心・安全な生活を目指し、「廊下を歩こうキャンペーン」を実施した。キャンペーン前になかよし班で、廊下や階段の危険を探し、「どうして廊下歩行が安心・安全につながるのか」について考えを出し合った。また、「できるようにするためにどんな姿を目指したいか」を、学級で考える機会を設定した。
- ・期間を決めて全校でキャンペーンに取り組み、達成したら花を貼って掲示した。再度なかよし班で集まり、廊下歩行に関わるよさ見つけの会を行い、成果を認め合った。
- ・ひびきあい活動の取組として、「ぽかぽか行動をたくさん見つけようキャンペーン」を実施した。各学級の実態に応じた相手を思いやる行動を出し合い、「〇年生のぽかぽかファイブ」を設定して取り組んだ。感謝の気持ちを伝えたり、笑顔で過ごしたりする中で、温かい仲間づくりができた。また、うれしかったことやありがたうと伝えたいことを「よいこと見つけ」としてカードに書き、全校が見える場所に掲示した。異学年の子との関わりで書いている児童が多く、ぽかぽか行動の輪が広がった。

**今後に向けて**

- ・学校課題について、全校で取り組むことを継続していく。
- ・児童が、自分たちの生活を自分たちでよりよくすることの充実感を味わうことができるようにする。

**平澤 紀子 教授（岐阜大学大学院）からのコメント**

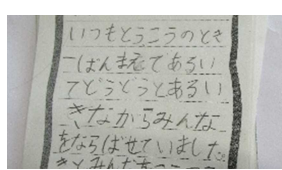
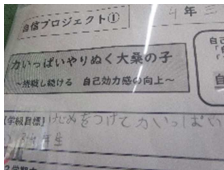
・「お互いを大切に」という願いを実現するために、「なぜ大切なのか」をなかよし班で考え、「ぽかぽかファイブ」等に取り組みました。自分達で考えたからこそ、子ども主体で、温かさの輪が広がっていますね。

## 大切にしたいこと（児童生徒の願い、教師の願い）

- ・自分で決めためあてに向かって自分なりに努力し、やりきりたい。
- ・自己を見つめ、自分に合った目標を設定し、それを達成するという成功体験を積み重ねてほしい。
- ・学級や委員会活動の中で一人一人が活躍し、自分のよさに気付いたり、仲間のよさを認めたりすることを通して、自己効力感を高めてほしい。

## 具体的な活動で

- ・学期始めや運動会等の行事前に、「自信プロジェクト」を行った。この取り組みでは、自分のめあてを決め、達成のための具体的方途や評価方法までを各自で考え、実践した。めあてを教室背面に掲示し、一人一人のめあてが視覚的にわかるようにした。それにより、教師だけでなく、仲間同士の励まし合いや認め合いにつながった。また、活動を通して、児童の自己効力感も高まった。
- ・2、3学期には、企画委員会が中心となり、全校児童対象のよさ見つけを行った。少人数ということもあり、児童はお互いのことをよくわかっているが、あらためて一人一人が様々な観点で仲間のよさを見つけた。よさを書いたカードを学級内で紹介したり、お互いに読み合ったりすることを通して、「一人一人違うけど、みんなにそれぞれよさがある」ということを実感することができた。



## 今後に向けて

- ・児童が自分たちの力で生活をよりよいものにしていくために、日常生活での姿を振り返り、課題意識をもたせることができるよう指導する。
- ・児童が主体的に学校をよりよくしていくために自ら活動を提案、実行し、振り返りを繰り返すことを通して、自分の学校の誇りといえるものをつくり、自信をもって語れるようにしたい。

## 平澤 紀子 教授（岐阜大学大学院）からのコメント

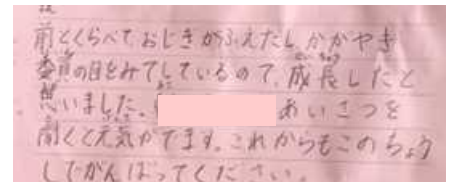
- ・「自分で決めた目標に向かう」という願いを実現するために「自信プロジェクト」に取り組みました。よさ見つけカードを通じ、「一人一人違うけど、みんなにそれぞれよさがある」を実感できたんですね。

## 大切にしたいこと（児童生徒の願い、教師の願い）

- ・一人一人認め合うことによって、次の行動への意欲が高まったり、低学年が高学年に憧れをもって行動したりできるようにしたい。
- ・朝の明るいあいさつで、気分がよくなり、やる気の出る1日をスタートしたい。
- ・望ましい行動について、児童一人一人が自分なりの考えをもって取り組み、自分の行動を振り返った時、より良い行動を考えられるようになってほしい。

## 具体的な活動で

- ・毎朝委員会が玄関に立ち、全校に挨拶をする。「進んでできる」「目を見てできる」「明るくできる」など、良いと思うあいさつを示し、できている様子を紹介した。（全校のかがやき見つけなど）
- ・チャイムが鳴る前に、席に座り、授業の準備をし挨拶して始められる姿を増やすために「時間貯金キャンペーン」を実施した。できた分だけトロフィーにシールを貼って、目標に達成した時にはお楽しみ会を行う計画を立てた。
- ・学期末に学年ごとにやり切りたい目標を立てた。目標を達成できたら雪だるまの掲示を白く埋めて、雪だるまを完成させようと、取り組んだ。



## 今後に向けて

- ・子どもたちが考えた良いと思う姿を、全校で共有し、全校への働きかけができるようにする。
- ・よりよい生活を目指し、設定した目標に達した時に充実感・満足感を味わうことができるような企画を考える。

## 平澤 紀子 教授（岐阜大学大学院）からのコメント

- ・「子どもの意欲ややる気を育てたい」という願いを実現するために、「全校のかがやき見つけ」で認め合う場をつくりました。「時間貯金」など達成感の可視化の工夫が子どもの充実感につながっていますね。

## 大切にしたいこと (児童生徒の願い、教師の願い)

- ・環境委員会のがんばりによって、全校のみんなが過ごしやすい、美しい学校にしたい。自分たちで考えたり工夫したりして、整頓に取り組むことができるようになってほしい。
- ・できる・できないが一人一人異なっても、それぞれのがんばりを認め合えるようになってほしい。

げたばこで  
◎をとれる  
ポイント★

良い例◎

- ・やさしく  
いれる
- ・かかとを  
そろえている

## 具体的な活動で

- ・よりよい生活のための「南小引き出し&下駄箱ピカピカキャンペーン」を実施した。
- ・キャンペーン前に「どうして整理整頓は大切なのか。」「できるようにするために何に気を付けたいか。」を、学級で考える機会をつくった。
- ・整頓が苦手な児童には、どのような方法であれば目標を達成できるか、本人と事前に確かめた。
- ・目標が達成できた分だけ◎を書いた。全校が◎を取れた日には、ランチルームのお昼の放送で結果を共有し、全校で喜び合った。

南小引き出し&下駄箱ピカピカキャンペーン★

	2/9(月)	2/10(火)	2/11(水)	2/12(木)	2/13(金)	2/14(土)	2/15(日)	2/16(月)	2/17(火)	2/18(水)	2/19(木)	2/20(金)
1 1年	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
2 2年	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
3 3年	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
4 4年	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
5 5年	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
6 6年	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
た	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎

全員できたら◎、1~3人できなかった○、4人以上できなかったら△です。

## 今後に向けて

- ・よりよい生活のためのキャンペーンについて、児童たちがこれまでの、取り組みや成功体験をもとに、目標の設定や全校への働きかけをできるようにする。
- ・児童が、生活を自分たちでよりよくすることの充実感を味わうことができる機会をつくる。

南小下駄箱&引き出しぴかぴかキャンペーン 4年生

	2月9日	2月10日	2月11日	2月12日	2月13日
引き出し	◎	◎	◎	◎	◎
下駄箱	△	△	△	△	△
	2月16日	2月17日	2月18日	2月19日	2月20日
引き出し	◎	◎	◎	◎	◎
下駄箱	◎	◎	◎	◎	◎

全員ができたら◎  
1~3人できなかったら○  
4人以上できなかったら△

## 平澤 紀子 教授 (岐阜大学大学院) からのコメント

・「個々の違いを認め合う」とう願いを実現するために、全校とともに「どうすればできるか」を本人と相談する取り組みを行いました。全校での認め合いの土台づくりとともに、一人も取り残さず認め合う環境につながっていますね。

## R7 スクールワイドPBSに基づいた取組 伊自良北小学校

### 大切にしたいこと（児童生徒の願い、教師の願い）

- ・小規模校の強みを生かし、一人一人のよさや努力を認め、粘り強く挑戦する姿を価値づける。
- ・全校で支え合い、仲間とともに頑張る姿をめざす。
- ・自分や仲間のよさに気づき、「自信」「幸せにつながる成長」を実感できる学校にしたい。



### 具体的な活動で

- ・伝統の「十六拍子」：縦割り班で上級生が下級生を支え、地域講師の協力を得ながら、全校が粘り強く練習した。めざす発表ができた。
- ・「銀杏活動」：会社組織を立ち上げ、製造・広報・販売などの仕事を一人1役割で分担し、課題を全校で共有、解決しながら、目標の500袋の商品を完成させ完売した。全校で喜び合った。
- ・音楽会、ロビーコンサート：仲間と声をそろえて合唱練習する過程を大切にし、小さな学校の大きな勇気を出す場として挑戦した。来場者の感想を励みに自己有用感や幸福感を高めた。



### 今後に向けて

- ・全ての児童が「幸せ」「成長」「自己有用感」を実感できているかを丁寧に見取り、振り返りや対話を通して思いを言葉にする場を充実させる。
- ・一人一役の仕組みや努力を認め合う文化、「十六拍子」や「銀杏活動」の伝統活動を継承し、SW-PBSの理念を取り入れて、誰もが大切にされ、挑戦と成長を実感できる学校づくりを全児童、全職員一丸となって進めていく。



### 平澤 紀子 教授（岐阜大学大学院）からのコメント

・「一人一人の自信や幸せ、成長」という願いを「十六拍子」「銀杏活動」等を一人一役の責任と達成感の仕組みとし、子どもが自己の貢献や仲間との成果を実感しています。伝統を活かした取り組みですね。

## 大切にしたいこと（児童生徒の願い、教師の願い）

- ・あたたかい人間関係の中で一人一人が大切にされていると実感できる集団の中で生活したい。
- ・仲間のよさに目を向け、自分には何ができるかを考えられるようになってほしい。
- ・誰もが安心安全に笑顔で生活できる美しい学校にするために、児童同士もよさを認められるようになってほしい。



## 具体的な活動で

- ・「いじめを考える日」には、1年生から6年生までのなかよし班（異年齢集団）で「どんな声をかけられるとうれしい気持ちになるか」を考え、いじめをなくすために「ぼかぼか言葉（行動）」で仲間と関わることを確認した。（ホワイトボードに書き込み廊下に掲示）
- ・美山中校区小中連携の良さみつけを実施した。1年生から6年生までのなかよし班（異年齢集団）で互いのよさを木の葉カードに書き、「思いやりの木」を作成した。
- ・毎日、気持ちの良いあいさつ、もくぴか掃除、靴箱の整頓の素晴らしい姿を全校放送で紹介し、望ましい行動を認め合った。



## 今後に向けて

- ・取組を一過性の行事で終わらせず、日常生活の中に定着させたい。掲示物や行事での確認だけでなく、学級活動や日々の生活場面と継続的に結び付け、望ましい行動について考えられるようにする。
- ・異年齢交流のよさを生かしながら、日常の中で自然に認め合いが広がる学校風土づくりを一層推進していく。

## 平澤 紀子 教授（岐阜大学大学院）からのコメント

・「仲間のよさに目を向け、誰もが安心安全」という願いをなかよし班で「ぼかぼか言葉」を考え「思いやりの木」で可視化しました。毎日の全校放送で、認め合いを日常の文化としており、すばらしいですね！

## 大切にしたいこと（児童生徒の願い、教師の願い）

- ・自分と向き合い自分で決めること、決めたことに懸命に取り組むこと。うまくいなくても、取り組んだことに価値があると思えること。
- ・仲間の「やってみよう」「やってみたい」を温かく、見守り励まし、認め合える関係を全校で築くこと。
- ・通年で「きらり見つけ」を行い、「みんな違って、みんないい」という感覚を育てること。
- ・個の「やってみたい」を全職員でサポートすること。



## 具体的な活動で いわ桜五輪（運動会）の取組

- ・異学年学級で、いわ桜五輪への願いを出し合い、学級のスローガンを決めた。スローガンに向かって、個人競技で取り組みたい種目と具体的な目標を、教師の助言を受け家族と相談しながら決めた。
- ・取組期間には、異学年学級毎の取組表に、個人の決めた種目と目標、週ごとの取組状況を記録して玄関に掲示した。状況を見ながら高学年が低学年を励ましたり、教師が練習のサポートに入ったりした。
- ・当日は、保護者、地域の人、仲間に見守られながら、緊張感の中、全員が練習の成果を披露した。目標を達成しなかった児童もいたが、全児童に温かい拍手が送られた。閉会式には全力で輝いた証として全児童に金メダルを授与した。異学年学級長から、下級生ひとり一人に声をかけながらメダルを渡した。



## 今後に向けて

- ・児童が学校生活での課題を見出し、児童会活動を通して全校へ働きかけることで達成感につなげる。

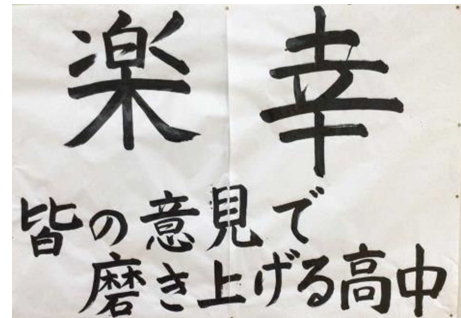


## 平澤 紀子 教授（岐阜大学大学院）からのコメント

- ・「自らの決める価値や仲間同士の認め合い」という願いを実現するために、「いわ桜五輪」を工夫しました。全員に金メダルを授与し学級長が一人一人に声をかける場面に、子どもの願いが見事に体現されていますね。

## 大切にしたいこと（生徒の願い、教師の願い）

- ・自分も相手も大切にする言動。
- ・望ましい行動について考え、心身共に安全な生活を送ること。
- ・一人一人の捉え方は異なるが、お互いが幸せを感じながら生活ができるように責任のある行動をとる。



## 具体的な活動で

- ・話の聴き方、廊下での過ごし方、登下校、SNS等の場面ごとに望ましい行動を具体的に示し、掲示した。
- ・肯定的な行動支援。「廊下は走らない」ではなく「廊下は歩こう」など肯定的な言葉を使うように職員で共通理解を図り、指導に一貫性をもたせた。
- ・全校が集まるランチルームにおいて、生徒会が中心となり生徒間の良さ見つけを、紹介して良い行動やその背景の生徒の意識を共有した。
- ・各学年実態に応じた SEL(社会性と情動の学習)を実施し、話し合い、ロールプレイなどを取り入れ、生徒が自分の考えや気持ちを言語化し、互いに認め合う経験を重ねるように取り組んでいる。縦割り掃除や入学説明会等で、相手の立場を考える力の育成に取り組んでいる。

## 縦割り掃除



## 肯定的な掲示

自分も相手も幸せであるために  
～廊下での過ごし方～



- ・歩く
- ・移動するための場所

## 今後に向けて

- ・生徒との対話を通し、生徒自身が自己決定する機会を増やす。
- ・生徒が自分たちで考え、自分たちで生活をよりよくすることの支援を行い、生徒の自己有用感を高める。
- ・SEL（社会性と情動の学習）は教職員間で共通理解を深めながら、継続的かつ計画的に実施し生徒の成長を支援する。

## ↓SEL:ロールプレイ



## 平澤 紀子 教授（岐阜大学大学院）からのコメント

- ・「お互いが幸せ」という願いを実現するために、全職員で肯定的な言葉や指導の一貫性に取り組みました。SELで気持ちの言語化を育て、生徒会のよさみつけで、認め合う文化を学校全体に広げていますね。

## R7 スクールワイド PBS に基づいた取組 伊自良中学校

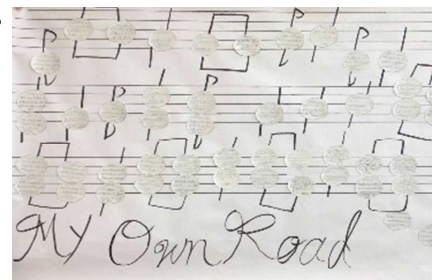
### 大切にしたいこと（児童生徒の願い、教師の願い）

- ・「育てたい・がんばりたいことの具体化」、「分かりやすい計画づくり」、「成果の可視化」の3つの視点をもとに、生徒が自分なりの目標をもって取り組み、取り組みの中で自分の良さを実感してほしい。また、取り組んだことの達成感から、自己肯定感を高めてほしい。
- ・生徒同士の関わりの中で、できたことだけに目を向けるのではなく、その人が何を頑張ろうとしているのかを慮ることや、その行為の価値について考えることを大切にしてほしい。

### 具体的な活動で

#### 【音楽祭を通した活動】

- ・学級で合唱を通して目指す姿や高めたい力を考え、個で頑張りたいことを明確にし、そのためにどう取り組むか学級内で共有した。
- ・練習内で見つけた仲間の頑張りをカードに記入し、掲示した。仲間のことを思って行動していることや、工夫して取り組んでいることについて書くようにし、教師からも、その行動の価値について認める声掛けを行った。
- ・各パート内で見合うことで、全員の頑張りがよさが認められるようにし、模造紙には全員のよさが掲示された。



#### 【自分たちの財産づくりとして】

- ・「学級の財産」をより確かなものとするために、個で学級に貢献できることは何かを考え、自分が取り組むことを決めた。
- ・個の頑張りを見合う仲間を明確にし、仲間の小さな頑張りが成長に価値を見出せるようにした。

### 今後に向けて

- ・生徒自身の「こうしたい」、「こうなりたい」という思いをもとに、生徒会活動などを活用し、生徒主体とした取り組みを計画していく。
- ・取り組みの中で見られる小さな成長を教師からはもちろん、仲間同士で認め合う場を設定し、誰もが達成感や充実感を味わうことができるようにする。

### 平澤 紀子 教授（岐阜大学大学院）からのコメント

- ・「自己肯定感を高める」という願いを実現するために、「音楽祭練習の仲間の頑張りがカード」で可視化しました。「できたこと」だけでなく「がんばろうとしていること」を認める教師の声かけが成長を支えていますね。

## 大切にしたいこと（児童生徒の願い、教師の願い）

- ・「なりたい自分になる学校」を合言葉に「自分が出せる」個を確立したい。
- ・「自分にはよさがある」と思えるように、違う一面、意見が認め合える集団になってほしい。
- ・人生の先輩への憧れを夢の種にしてほしい。
- ・苦手なこと、やったことがないことも、「やってみたら楽しい!」と感じられるように挑戦し続けてほしい。



## 具体的な活動で

- ・よさを生徒同士で認め合う、「美山中思いやりの木」「ヒーローインタビュー」で頑張りを明るく前向きに認め合う機会をつくった。
- ・三者懇談時に、自分の頑張りを保護者や教師に伝わるようプレゼンテーションを行った。
- ・自分の「好き」や「得意」を生かして、山県市で実現したいことを考え、市議にプレゼンテーションを行った。
- ・仲間や教師、保護者、地域の方と、自分や仲間のよさや意見を交流し、認め合える機会を増やしたことで、自信につながった。



## 今後に向けて

- ・なりたい自分になるために、自分の「好き」や「得意」は伸ばしつつ、一人一人が「苦手」なことにも挑戦し、「やってみたら楽しい!」と感じられるように、生徒が主体的に取り組む活動を工夫し、継続していく。



## 平澤 紀子 教授（岐阜大学大学院）からのコメント

・「自分のよさに気づき、違いを認める」という願いを実現するために、「思いやりの木」等に取り組みました。保護者・地域にも認め合いの環を広げ、認められる経験が生徒の自信を育てていますね。